令和6年度全国学力・学習状況調査の結果分析について

― 野洲市の子どもたちの学力・生活実態 ―

野洲市教育委員会事務局学務課 野洲市教育研究所

令和6年度全国学力・学習状況調査の概要(野洲市)

調査の目的

- 野洲市の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調查概要

- ·調査日時令和6年4月18日(木)
- ·調査対象小学校6年生、中学校3年生
- ·調查事項①児童生徒:教科調查[国語、算数·数学]/質問調查

②学校 :質問調査

- ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。
- ・各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。
- ・今年度の調査の特徴・児童生徒質問調査について、全面的にオンラインによる回答方式で実施。

平均正答数及7	ゾ
平均正答率	

全国(国公私) 全国(公立) 滋賀県 野洲市

	小鸟	学校	中学校		
	国語	算数	国語	数学	
全国(国公私立)	9.5 (67.8%)	10.2(63.6%)	8.8 (58.4%)	8.5 (53.0 %)	
全国(公立)	9.5 (67.7%)	10.1(63.4%)	8.7 (58.1%)	8.4 (52.5 %)	
滋賀県(公立)	9.1(65%)	9.9(62%)	8.4(56%)	8.1 (51 %)	
野洲市	9.4(67%)	10.1(63%)	8.6(57%)	8.3 (52 %)	

1.教科に関する調査結果

教科に関する調査の結果のポイント(国立教育研究所作成資料引用)

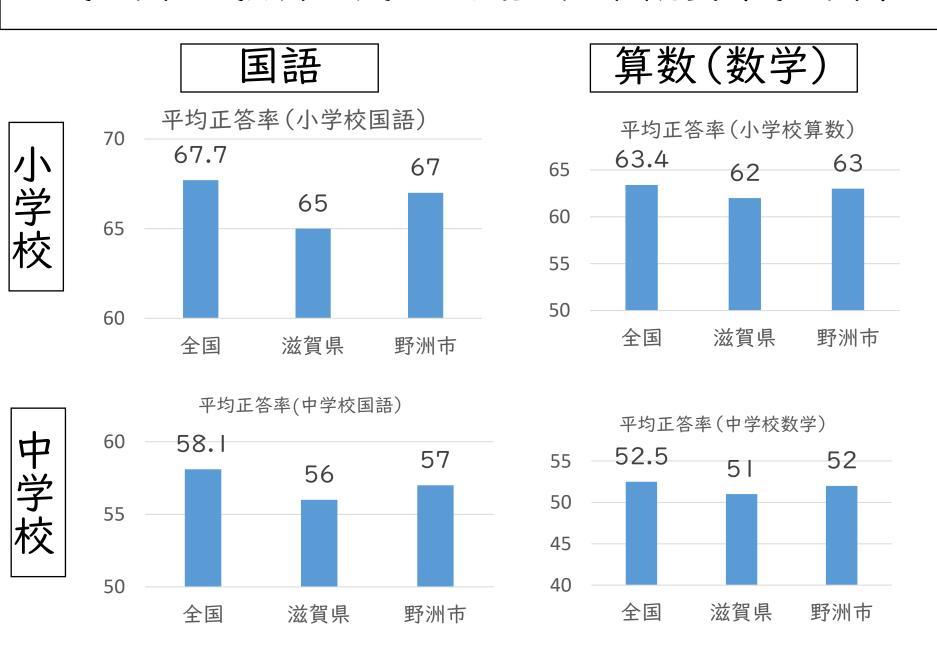
【国語】

- 事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題が見られた。
- 自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えること に課題が見られた。
- →小・中学校を通じた効果的な資質・能力の育成のため、記録、要約、説明、論述、話合い等の 言語活動を工夫することが重要。

【算数·数学】

- 図形や単位量当たりの大きさ(速さなど)について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られた。
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて 説明することに課題が見られた。
- →日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させることが重要。また、データの活用については、小学校段階からデータを言葉と数を使って表現する力を身に付けさせることが重要。

1. 野洲市の教科に関する調査結果概要(野洲市)



2. 教科に関する調査結果(1)小学校国語

問題のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視して出題されている。今年度は、

- 「書くこと」について、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題が出題された。
- 令和5年度までの調査で課題が認められた内容(情報と情報の関連付けなど)について状況を確認するため、問題(大問2-(2))が出題された。

結果のポイント

● 多くの児童が取り組めている記述問題もあるが、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方の工夫に課題がある。伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする指導の充実が大切である。

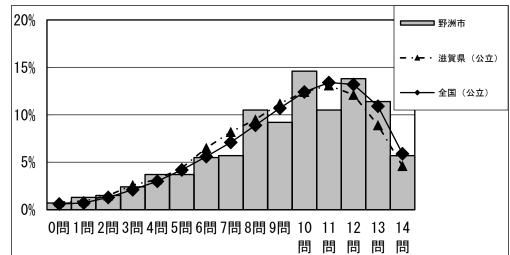
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができている。
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができている。

分類·区分別集計結果

分類		_ 0	対象問題数	平均正答率(%)			
		区分	(問)	野洲市	滋賀県(公立)	全国(公立)	
全体		14	67	65	67.7		
k 24h 77		(I) 言葉の特徴や使 い方に関する事項	4	63.0	61.0	64.4	
学習	知識及 び 技能	(2) 情報の扱い方に 関する事項	1	88.4	86.6	86.9	
指導 要の 内容	1人日上	(3) 我が国の言語文 化に関する事項	1	69.7	70.8	74.6	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	61.3	58.5	59.8	
		B 書くこと	2	67.2	66.9	68.4	
		C 読むこと	3	69.7	67.7	70.7	
•		知識·技能	6	68.4	66.9	69.8	
評価の観点		思考・判断・表現	8	65.9	64.1	66.0	
		主体的に学習に取り 組む態度	0				
		選択式	10	69.8	68.0	69.9	
問題	形式	短答式	2	56.4	56.5	59.7	
		記述式	2	63.3	60.6	64.6	

小学校国語の児童の正答数分布グラフ

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
野洲市	458	9.4/14	67	10.0	3.2
滋賀県(公立)	12,477	9.1/14	65	10.0	3.1
全国(公立)	947,364	9.5/14	67.7	10.0	3.1



野洲市小学生の正答率が高かった問題 (国語)※全国・滋賀県と比較して

分析のポイント(成果)

文の中における主語と述語との関係を捉えることがで きる。(言葉の特徴や使い方に関する事項)

具体的な設問例 (大問3一)

【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適 切なものを4つの中から選択する。

問 題

樂は、

解答の分析(無解答率 野洲市2.2% 滋賀県2.7%、全国2%、)

〇正答率

野洲市66.2% 滋賀県59.2%

全国 62.3%

〇正答例

1 もやが(14.6%) 2 そして(1.7%)

3 巣は(66.2%)

4 まぶしく(14.8%)

Oポイント

「かがやいています」の主語が「巣は」であるという主語と述語との 関係を捉えることが求められる。主語を「~は」「~が」などを手掛か りに形式的に判別するのではなく、文の構成を理解した上で、主語と 述語との関係を捉えることが大切である。

〇成果

「かがやいています」の主語が「巣は」であることを捉えることができて おり、文の構成を理解した上で、主語と述語との関係を捉えることがで きていると考えられる。

野洲市小学生の正答率が低かった問題 (国語)※全国・滋賀県と比較して

分析のポイント(課題)

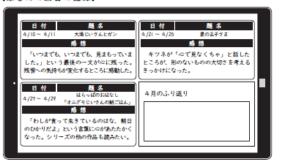
日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができていない。また、読書記録などに取り組んだ経験がないため、無答が多くなったと考えられる。(我が国の言語文化に関する事項)

具体的な設問例 (大問4)

【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。

問題

【原さんの読書の記録】



- 1 読書を通して、学校図書館や地いきの図書館の 利用の方法を知ることができると気づいた。
- 2 読書を通して、科学的な事実について、ぎ問に思ったことを調べて解決できると気づいた。
- 3 読書を通して、自分が文章を書くときに役に立つ書き方を学ぶことができると気づいた。
- 4 読書を通して、自分の心にひびく言葉や今までになかった考えを見つけることができると気づいた。

解答の分析(無解答率 野洲市13.3%、滋賀県10.7%、全国7.6%)

○正答率

野洲市69.7%

滋賀県70.8% 全国 74.6%

○正答例

- Ⅰ 読書を通して、学校図書館や地域の図書館の利用の 方法を知ることができると気づいた。(3.3%)
- 2 読書を通して、科学的な事実について、疑問に思ったことを調べて解決できると気付いた。(5.2%)
- 3 読書を通して、自分が文章を書く時に役に立つ書き方を学ぶことができると気づいた。(8.3%)
- <u>4 読書を通して、自分の心に響く言葉や今までになかった考えを見つけることができると気付いた。(69.7%)</u>

〇ポイント

選択肢の1から4に記載されている内容は、いずれも読書の意義として考えられることであるが、ここでは、原さんが、【原さんの読書の記録】を読み返して、「読書を通して、自分の心にひびく言葉や今までになかった考えを見つけることができると気づいた」ことを捉えることが求められる。

○改善のポイント

日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに役立つことに気付かせる必要がある。そのために本などの中の言葉から自分を支える言葉を見付けたり、今までになかった考えを発見したりし、それを、読書記録などにまとめることで、読書の意義をより強く実感できるようにすることが大切である。

2. 教科に関する調査結果(2)小学校算数

問題のポイント

を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した。今年度は、 ● 図形や割合、データの活用などにおいて、過去の調査で課題が見られた内容の学習状況を確認する 問題が出題された。

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、算数の問題を見いだし、問題

● 立体図形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について考察できるかどうかを問う問題が出題された。

● 日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、数量の関係について考察できるかどうかを問う問題が出題された。

結果のポイント

● 図形について基礎的・基本的な知識・技能は身に付いているが、深い理解を伴う知識の習得やその活用には課題がある。図形を構成する要素を見いだし、活用できるように指導することが必要である。 ● 速さを道のりと時間の関係から捉えることはできているが、速さの意味について理解することに課題

がある。速さなど単位量当たりの大きさの意味や表し方を理解するとともに、場面や目的に応じて比べ方を考察し日常生活に生かせるように指導することが大切である。

● 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述することに課題がある。グラフ

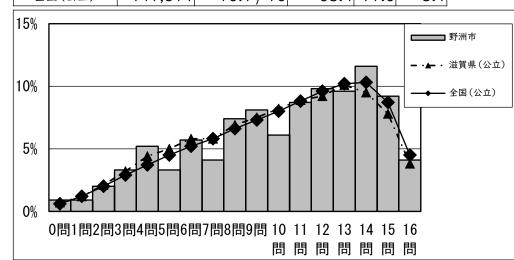
● 折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述することに課題がある。グラフを読み取り、見いだしたことを表現できるように指導することが大切である。

分類·区分別集計結果

		対象問題数	平均正答率(%)			
分類	区分	(問)	野洲市	滋賀県	全国	
		(四)	王] /// 117	(公立)	(公立)	
	全体	16	63	62	63.4	
	A 数と計算	6	66.0	64.1	66.0	
	B 図形	4	65.6	64.7	66.3	
 学習指導	C 測定	0				
	C 変化と関係	3	52.0	49.6	51.7	
	D データの活 用	4	62.4	60.8	61.8	
	知識·技能	9	72.5	70.9	72.8	
評価の観点	思考·判断·表 現	7	51.5	49.8	51.4	
	主体的に学習 に取り組む態 度	0				
	選択式	5	75.5	73.7	75.3	
問題形式	短答式	7	61.4	60.0	62.0	
	記述式	4	51.4	49.5	51.0	

小学校算数の児童の正答数分布グラフ

	児童数	 平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
野洲市	458	101/16	(%)		4.0
滋賀県(公立)	12,475	9.9 / 16	62	10.0	3.9
全国(公立)	947,579	,	63.4	11.0	3.9
	,	,			



野洲市小学生の正答率が高かった問題 (算数)※全国・滋賀県と比較して

分析のポイント(成果)

数量の関係を表す式について理解するとともに、数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりすることができている。(数と計算)

具体的な設問例 大問 I(2)

はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。

問題

解答の分析(無解答率 野洲市0.2%、滋賀県0.3%、全国0.3%)

(2) たくみさんは、はじめに折り紙を何枚か持っていました。 ゆうまさんから38枚もらって、全部で62枚になりました。 このことを、たくみさんがはじめに持っていた折り紙の枚数を□枚として 式に表します。

下のPからIまでの中から、正しい式をIつ選んで、その記号を書きましょう。

野洲市90.4% 滋賀県87.6% 全国 88.5%

○正答例

 $762+38=\Box(1.5\%)$

 $1 \Box +38 = 62 (90.4\%)$

 $\neg \Box -62=38(3.9\%)$

エ ロー38=62(3.7%)

$$P 62 + 38 = \Box$$

$$1 \Box + 38 = 62$$

ウ
$$\Box$$
 - 62 = 38

$$\Box$$
 - 38 = 62

ポイント

未知の数量を表す記号として□などを用いて、問題場面どおりに数量の関係を式に表すことができるようにすることが大切である。数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかを問うている。ここでは、はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚として、問題場面どおりに加法の式に表すことが必要である。

成果

はじめに持っていた折り紙の枚数と、もらった折り紙の枚数の数量の関係を、□を用いて加法の式に表すことができている。つまり、未知の数量を表す記号として□などを用いて、問題場面どおりに数量の関係を、式に表すことができていると考えられる。

野洲市小学生の正答率が低かった問題 (算数) ※全国・滋賀県と比較して

分析のポイント(課題)

球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができていない。体積の単位とこれまでに学習した球の直径の長さや立方体を構成する要素との関係を考察できていないと考えられることから、深い理解を伴う知識の習得に課題がある。(図形)

具体的な設問例 (大問3(3))

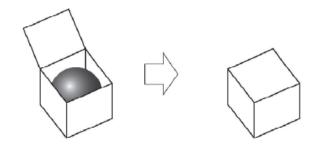
直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。

問題

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm³ かを求める式を書きましょう。 ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必 要はありません。 解答の分析(無解答率 野洲市11.8%、滋賀県11%、全国9.8%)

〇正答率

野洲市32.3% 滋賀県33.4% 全国 36.5% ○正答例

22×22×22 (32.3%)

○誤答として多かったもの

22×22(10.7%)

22×3. | 4などの3. | 4を用いた式(| 15.

9%)

○誤答の解説

22×22と解答している児童は、球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を 捉えることはできているが、立方体の一つの面の面積の求め方を式にしていると 考えられる。

22×3.14と解答している児童は、円の直径と円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。

○改善のポイント

身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見いだし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要である。

2. 教科に関する調査結果(3) 中学校国語

問題のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視した。今年度は

● 言語活動の充実が図られてきている状況を踏まえ、話合いでの発言や文章から目的に応じて必要な情報を取り出したり、目的に応じて文章を工夫して書いたりすることができるかを問う問題が複数出題された。

結果のポイント

● 多くの生徒が取り組めている記述問題もあるが、目的に応じた内容になっていない解答も見られる。自分が表現した内容を確認し、目的に照らし合わせて改善することができるよう指導することが大切である。

● 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。図表がある場合とない場合を比較し、考えたことを説明し合うことで、筆者が図表などを用いた意図を考えることができるように指導することが有効である。

生徒数

分類·区分別集計結果

分類 区分 全体				平均正答率(%)			
		区分	対象問題数 (問)	野洲市	滋賀県(公立)	r e	
		全体	15	57	56	58.1	
学指要の内容の内容を表す。		(I) 言葉の特徴や使い方に 関する事項	3	60.6	57.4	59.2	
	知識 及び	(2) 情報の扱い方に 関する事項	2	59.7	58.5	59.6	
	技能	(3) 我が国の言語文 化に関する事項	ı	74.1	72.0	75.6	
	思考力、	A 話すこと・聞くこと	3	54.1	56.6	58.8	
	判断	B 書くこと	2	63.5	61.0	65.3	
	カ、 表現 カ等	C 読むこと	4	49.4	45.9	47.9	
		知識·技能	6	62.6	60.2	62.0	
評価の	の観点	思考·判断·表現	9	54.1	52.8	55.4	
計画の無点		主体的に学習に取り 組む態度	0			1	
		選択式	9	60.3	59.1	61.0	
問題	形式	短答式	3	61.5	60.4	61.8	
		記述式	3	45.0	41.3	45.5	

中学校国語の児童の正答数分布グラフ

1		野洲市	437	8.6/	15	57	9.0	3.3
Ī	;	滋賀県(公立)	11,073	8.4/	15	56	9.0	3.4
		全国(公立)	875,574	8.7 /	15	58.1	9.0	3.4
	15%							洲市
	10%				*			質県(公立)
	5%							
	0%							
		0問1問2問3問4	問5問6問7問8	問9問 10問	11 12 問 問	13 14 問 問	15 問	

平均正答数

平均正答率

(%)

中央値|標準偏差

野洲市中学生の正答率が高かった問題(国語) ※全国・滋賀県と比較して

分析のポイント(成果)

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることが できる。(書くこと)

具体的な設問例 (大問3一)

物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切 なものを選択する。

問 題

の辞書を久しぶりに使った。」を取り上げることにしました。その意図として最も適切なものを、 紙の辞書を初めて手にしたときの気持ちがより明確に伝わるようにするため

物語の読み手に、 物語の読み手に、

しぶりに使って気付いたよさがより明確に伝わるようにするため

ン辞書の方がよいことがより明確に伝わるようにするため

解答の分析 (無解答率 野洲市0.5%、滋賀県1.3%、全国0.7%)

〇正答率

野洲市80.8% 滋賀県79.1% 全国 81.4%

〇正答例

- 物語の読み手に、紙の辞書を初めて手にしたときの 気持ちがより明確に伝わるようにするため。(3.9%) 2 物語の読み手に、紙の辞書よりもオンライン辞書の 方がよいことがより明確に伝わるようにするため。(I 1%)
- 3 物語の読み手に、紙の辞書を久しぶりに使って気付 いたよさがより明確に伝わるようにするため。(80.
- 4 物語の読み手に、紙の辞書の引き方が難しくて困っ たことがより明確に伝わるようにするため。(3.4%)

Oポイント

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいこと(今回の問題では「紙 の辞書を久しぶりに使って気付いた良さ」)を明確にできることが大切である。

〇成果

目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることがで きている。佐藤さんが、【ノートの一部】の〈もとにする体験〉に書いた情報の中か ら、「最近はオンライン辞書ばかり使っている。」と「紙の辞書を久しぶりに使っ た。」を取り上げることで、〈物語を通して伝えたいこと〉である「紙の辞書を久し ぶりに使って気付いたよさ。」をより明確に伝えようとしていることを捉えることが できている。

野洲市中学生の正答率が低かった問題 (国語) ※全国・滋賀県と比較して

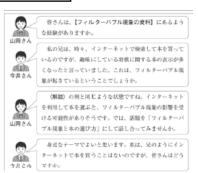
分析のポイント(課題)

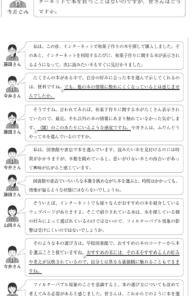
話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。 また、フィルターバブル現象などの図の読み取りができず、そもそも意味が理解できていない生徒も一 定数いたと考えられる。

具体的な設問例 (大問 I 四)

| 話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」 について | 自分の考えを書く。

問題







解答の分析 (無解答率 野洲市 11.7%、滋賀県 12.5%、全国9.9%)

正答率 野洲市40.5% 滋賀県40.6% 全国 44.7%

○正答の条件

①フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書いている。②【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのかが分かるように書いている。③実際に話すように書いている。 ○正答例 藤田さんのように、どのような本を読みたいのかが決まっているときには、フィルターバブル現象を利用すると、たくさんの本から短時間で本を選ぶことができて便利だと思うので、情報の偏りに気を付けながら、インターネットを

使って本を選ぶことも取り入れていきたいと思います。

○誤答例

山岡さんが話してくれた、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用して 本を選んでみたいと思いました。

○誤答例の解説

自分の考えが【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのか分かるように書くことと、実際に話すように書くことはできているが、フィルターバブル現象の特徴を取り上げて書くことができていない。フィルターバブル現象の特徴を理解できなかった、あるいは、理解はしていたが、話合いの目的や話題を意識せず、フィルターバブル現象の特徴を取り上げなかった可能性がある。

○改善のポイント

話合いの中で、話題を意識しながら経過を捉えて話したり聞いたりすることや、話合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することが大切である。また、思考ツールを活用した授業も取り入れていく必要がある。

2. 教科に関する調査結果(4)中学校数学

問題のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見い だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視 した。今年度は、

- ▶ 大問1~5では、数学の学習過程において問題発見・解決する際の、ある局面に限定した問 題が出題された。
- ▶ 大問6~9では、数学的活動を行う文脈を重視し、設定された場面において問題を数学的に 解決する問題が出題された。

結果のポイント

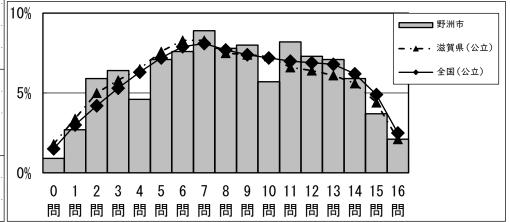
▶ 一次関数について、基礎的・基本的な知識・技能は身に付いていると考えられるが、問題解 決の過程を数学的な表現を用いて説明することに困難がみられる。問題解決する場面を設定し、 表、式、グラフなど数学的な表現を用いて説明できるように指導することが大切である。

♪ データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の根拠を箱ひげ図の箱の位置や四分位数 などを用いて説明すことに課題がある。複数の集団のデータの分布の傾向を比較するなどの活 動を通して、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明できるように指導することが大切である。

刀戏 巴刀们不可他不	分類・	区分別集計結果
------------	-----	---------

		11 A BB B 14/	3	平均正答率(%	%)
分類	区分	対象問題数(問)	野洲市	滋賀県(公立)	全国(公立)
全体		16	52	51	52.5
	A 数と式	5	50.4	49.6	51.1
学習指導要領	B 図形	3	39.7	38.5	40.3
領域	C 関数	4	60.1	58.7	60.7
	D データの活用	4	54.4	52.5	55.5
	知識・技能	11	62.5	61.4	63.1
 評価の観点	思考・判断・表現	5	28.3	26.5	29.3
計画の観点	主体的に学習に取 り組む態度	0			
	選択式	5	56.9	56.5	58.5
問題形式	短答式	6	67.1	65.6	67.0
	記述式	5	28.3	26.5	29.3

	生徒数	平均正答数	平均正答 率(%)	中央値	標準偏差
野洲市	437	8.3 / 16	52	8.0	4.1
滋賀県(公立)	11,088	8.1 / 16	51	8.0	4.1
全国(公立)	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1



野洲市中学生の正答率が高かった問題 (数学) ※全国・滋賀県と比較して

分析のポイント(成果)

問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる。正の数と負の数の四則計算に関しては定着していると考えられる。(数と式)

具体的な設問例 (大問6(I)

正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める。

問題

⑥ 次の図1は、正三角形の3つの頂点に○を、3つの辺に□をかいたものです。○には整数を1つずつ入れ、□にはその□がかかれている辺の両端の○に入れた整数の和が入ります。

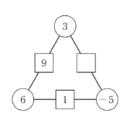


計算の例



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 下の図の□に入る整数を求めなさい。



解答の分析(無解答率 野洲市1.4%、滋賀県3%、全国2.5%)

○正答率 野洲市92.2% 滋賀県89.3%	○正答例 -2(92.2%) ○誤答例
全国 90.2%	2(1.4%) -8(1.4%)
	8(1.6%)

Oポイント

数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、 予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明 すること、さらに、問題の条件を変えるなどして、統合的・発展的に考 察することが大切である。

〇成果

考察の対象を明確に捉えることで、成り立ちそうな事柄を予想することができている。また、正の数と負の数の四則計算に関しては定着していると考えられる。

野洲市中学生の正答率が低かった問題 (数学)※全国・滋賀県と比較して

分析のポイント(課題)

一次関数を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

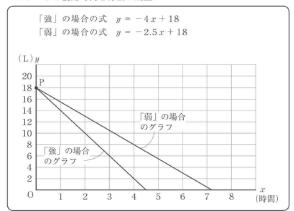
具体的な設問例 (大問8(2))

ストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるか求める方法をグラフや式を用いて説明する。

ア「強」の場合の式y=-4x+18と「弱」の場合の式y=-2.5x+18 イ「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

問題

ストーブの使用時間と灯油の残量



(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18 Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 y = -4x + 18 と 「弱」の場合の式 y = -2.5x + 18

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

解答の分析(無解答率 野洲市19.2%、滋賀県19.3%、全国16.4%)

正答率 野洲市13.3% 滋賀県15% 全国 17.1%	○アの場合の正答例 「強」の場合の式と「弱」の 場合の式について、それぞれ の式にy=0を代入し、xの値 の差を求める。(7.8%) ○正答の条件 (a)「強」の場合の式と弱」 の場合の式にy=0を代入す ること。 (b)上記(a)に対応するxの 値の差を求めること。 上記(a)(b)について記述し ているもの。	〇イの場合の正答例 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、yの値が0のときのxの値の差を求める。(5.5%) 「強」の場合のグラフと弱」の場合のグラフについて、yの値が0のときの2点間の距離を読み取る。 〇正答の条件(c)「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフのyの値が0である点に着目すること。 (d)上記(c)に対応するxの値の差を求めること。 (e)上記(c)に対応する2点間の距離を読み取ること。 上記(c)(d)又は(c)(e)について記述しているもの。
誤答例	2つの式に0を代入して、x の値を求める。2つの式からxの 値の差を求める。2つの式を	2つのグラフのyの値が0のとき を求める。2つのグラフのxの値 の差を求める。

○改善のポイント

表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらの用い方について数学的に説明 できるように指導することや解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げて、問題解決の 見通しを共有した場面などを振り返りながら、十分な説明ができるようにすることが大切である。

使って考える。

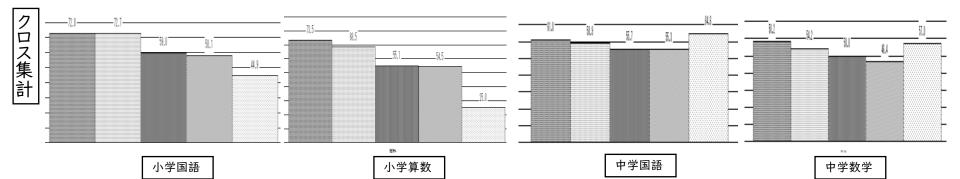
3. 質問調査結果(主体的・対話的で深い学びに関連する内容)

分析のポイント

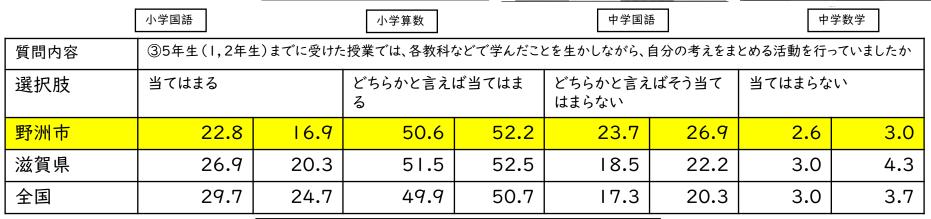
- ○「②課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という主体的な学び に関する質問に対して肯定的な回答の割合が全国、滋賀県と比較して低い。
- ○「①資料や、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」や「③学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動をしていましたか」という深い学びに関する質問に対して肯定的な回答の割合が全国、滋賀県と比較して低い。
- ○「①②③主体的、対話的で深い学びに取り組んだ」と回答している児童・生徒の正答率は、国語・算数(数学)共に高い傾向にある。また、否定的になるほど正答率が低くなる傾向がある。

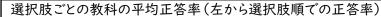
質問内容		①5年生(1,2年生)までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料 や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。									
選択肢左が小学校。右が中学	発表してい 校の割合			どちらかと言えば発 表していなかった		発表してい	なかった	考えを発表する機会が なかった。			
野洲市	19.0	13.9	39.2	33.9	29.3	31.6	10.3	16.0	1.7	3.7	
滋賀県	23.1	17.2	41.9	39.7	24.5	26.0	8.6	13.8	1.8	2.9	
全国	25.9	22.2	41.7	42.6	23.0	23.3	7.8	9.3	1.7	2.2	

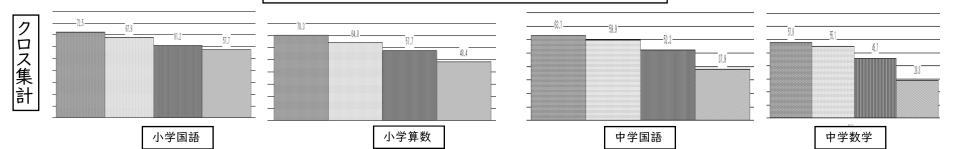
選択肢ごとの教科の平均正答率(左から選択肢順での正答率)



質問内容	②5年生(1,	②5年生(1,2年生)までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか							
選択肢	当てはまる		どちらかと言え	ば当てはまる	どちらかと言え はまらない	えばそう当て	当てはまらない		
野洲市	23.1	19.0	53.7	58.0	20.0	20.2	3.0	2.1	
滋賀県	26.6	23.2	54.5	55.0	16.3	18.4	2.5	2.9	
全国	29.5	27.2	52.4	53.1	15.6	16.7	2.5	2.6	
		選択肢ごとの	教科の平均正答率	(左から選択肢順	[での正答率)				
クロス 集 計	8.5 9.2	72.8	52.2	-8.7	59.1	37.0	9.1		







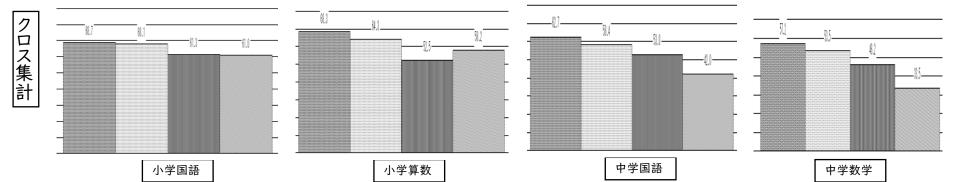
3. 質問調査結果(個別最適な学び・協働的な学びに関連する内容)

分析のポイント

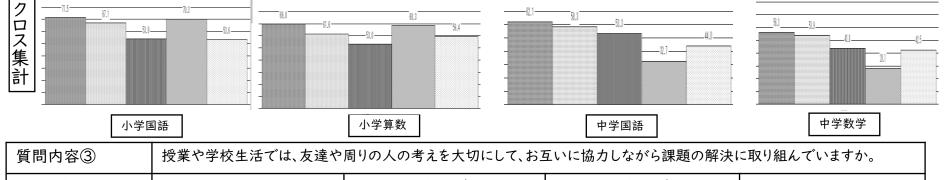
- 〇「①自分に合った教え方、教材、学習時間になっていた」と考える生徒は国語·数学共に正答率が高い傾向にあった。
- 〇協働的な学びに関する質問(②③)に、8割以上の児童・生徒が肯定的な回答をしている。また、中学校よりも小学校の方が高い傾向にある。
- ○「③協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と感じている児童·生徒は国語·算数(数学) 共に正答率が高い傾向にある。

質問内容①	5年生まで〔	5年生まで[1、2年生のとき]に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。									
選択肢	当てはまる		どちらかと言え	えば当てはま	どちらかと言えば	ずそう当てはま	当てはまらない				
左が小学校。右が中等	学校。右が中学校の割合		3		らない						
野洲市	25.9	20.9	57.1	57.5	23.7	16.7	2.6	3.9			
滋賀県	31.6	21.1	52.1	57.8	18.5	16.9	3.0	3.4			
全国	34.4	24.9	49.9	56.0	17.3	15.5	3.0	3.1			

選択肢ごとの教科の平均正答率(左から選択肢順での正答率)

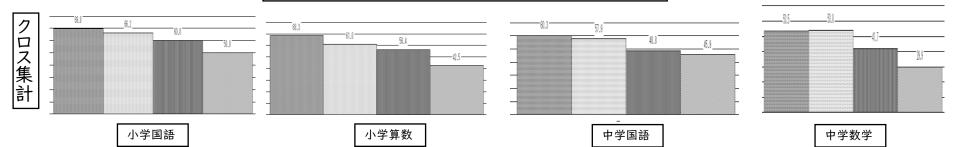


質問内容②	学級の友達	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか										
選択肢	当てはまる		どちらかと言 はまる	えば当て	どちらかと う当てはまり		当てはまら	ない	話し合う活 ていない。	動を行っ		
野洲市	33.2	23.9	51.7	56.8	11.6	15.1	2.8	2.3	0.4	1.2		
滋賀県	38.9	30.6	47.4	52.9	10.6	11.4	2.4	2.9	0.7	1.5		
全国	41.4	36.4	44.9	49.7	10.5	9.8	2.3	2.4	0.8	1.1		
選択肢ごとの教科の平均正答率(左から選択肢順での正答率)												



質問内容③	授業や学校生活	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。									
選択肢	当てはまる		どちらかと言え る	ば当てはま	どちらかと言え はまらない	ばそう当て	当てはまらない				
野洲市	41.6	33.2	48.9	56.6	7.8	7.2	1.3	2.1			
滋賀県	45.2	39.7	46.2	51.3	7.1	6.3	1.5	1.5			
全国	47.8	46.1	43.8	46.2	6.7	5.4	1.6	1.4			

選択肢ごとの教科の平均正答率(左から選択肢順での正答率)



3. 質問調査結果(ICTに関する内容)

67.5

全国

23.3

7.7

1.2

分析のポイント

- 〇小学校で7割、中学校で9割の児童・生徒が1週間に1回以ICT機器を使ったと回答している。
- ○「①ほぼ毎日使っている」の回答の割合が学校・児童・生徒の全てにおいて滋賀県や全国と比較して大幅に低い傾向にある。
- ○学校のICT機器を活用している感覚と児童・生徒が感じている感覚は大きな差がある。

31.0

全国

33.4

24.6

7.8

2.8

校種	学校回答 質問「前年」 タブレットな か。」							児童・生徒解答 質問「5年生(中学3年生)までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」						
回答	①ほぼ毎日 ②週3回以上 ③週						E	可以上 ④月	回以	上 ⑤月	回未清	莇		
		①	2	3	4	5			①	2	3	4	⑤	
1 3/4 1 4	野洲市	16.7	66.7	16.7	0	0		野洲市	6.5	19.4	37.9	27.2	8.8	
小学校 	滋賀県	67.3	26.8	5.9	0	0		滋賀県	19.3	33.5	30.2	12.7	4.2	
	全国	69.0	24.2	6.0	0.5	0.1		全国	25.3	34.2	26.0	10.3	4.2	
		①	2	3	4	5			①	2	3	4	⑤	
	野洲市	0	66.7	33.3	0	0		野洲市	7.9	36.7	41.8	9.5	3.5	
中学校	滋賀県	56.7	26.8	14.4	2.1	0		滋賀県	27.2	29.4	27.9	11.3	3.7	

0.2

3. 質問調査結果(児童の幸福感・自己有用感・挑戦心等に関する内容)

分析のポイント

○全体的に強い肯定(当てはまる)を回答する割合が全国·滋賀県と比較すると低い傾向にある。

○幸福感に関する質問(①②)に関しては、9割以上が肯定的な回答をしている。また、6割程度が友だち関係に強い満足観を抱いている。

○「③自分にはよいところがある」に強い肯定をしている割合は滋賀県·全国と比較して 低い。

〇挑戦心に関する質問(⑤⑥)に関して8割程度が肯定的な回答をしている。

肯定的な回答(左赤字当てはまる・右どちらかといえば当てはまる・下合計)をした児童の割合

質 問 内 容	野洲	州市	滋賀	[県	全	国
①友達関係に満足していますか。	62.9	28.7	63.1	28.3	62.4	28.7
① 及 廷 民 派 に 両 足 し じ い ま す か 。	91	.6	91	.4	91	. I
②普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	47.4	45.9	52.5	40.4	50.8	40.9
②自校の主心の中で、宇でなXU対ちになることはとれてらいがりよりか。	93	3.3	92	9	91	.7
③自分には、よいところがあると思いますか。	35.3	48.1	42.1	42.2	43.4	40.7
○日ガには、よいとこうがめると応いますが。	83	83.4		84.3		.1
④人が困っているときは、進んで助けていますか	42.5	50.2	44.6	48.5	46.0	46.7
(中人が困っているとさは、進んで助けていますが	92.7		93.1		92	.7
⑤将来の夢や目標を持っていますか	57.5	22.2	57.8	22.7	60.6	21.8
○付木の多で日保を持つていますが.	79	7.7	80	.5	82	.4
⑥地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	28.4	51.9	33.5	49.2	36.8	46.7
○地域(社会とよくするため/に同かしてみたいと恋いますが、	80) <mark>.</mark> 3	82	7	83	.5

3. 質問調査結果(生徒の幸福感・自己有用感・挑戦心等に関する内容)

分析のポイント

○全体的に強い肯定(当てはまる)を回答する生徒の割合が全国·滋賀県と比較すると 低い傾向にある。

○幸福感に関する質問(①②)に関しては、8割以上が肯定的な回答をしている。また、半数程度が友だち関係に強い満足観を抱いている。

○自己有用感に関する質問(③④)に関して強い肯定をしている割合は約3割程度。

〇挑戦心に関する質問(⑤⑥)に関して滋賀県・全国と比較して若干低い傾向にある。

肯定的な回答(左赤字当てはまる・右どちらかといえば当てはまる・下合計)をした生徒の割合

質 問 内 容	野洲	州市	滋賀	[県	全	玉
①友達関係に満足していますか。	49.2	38.3	52.7	36.7	55.0	35.1
① 及 廷 民 际 に 胸 足 し て い よ y が 。	87	7. 5	89	.4	90	.1
②普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。	34.6	52.0	42.7	47.0	44.6	45.2
②自校の主角の中で、主じなXIIすりになることはとれてらいめりよりか。	86.6		89	.7	89	.8
③自分には、よいところがあると思いますか。	33.6	42.2	34.5	45.5	40.4	42.9
③日ガには、よいとこうがめると心いまりが。	75. 8		80.0		83	.3
④人が困っているときは、進んで助けていますか	27.1	60.3	32.4	56.1	38.3	51.8
(中人が) 四うくいるとさは、進んと助けていますが	87	. ₄	88	.5	90	.1
⑤将来の夢や目標を持っていますか	29.9	33.2	32.3	31.3	36.1	30.2
②付木の多で日標を持つていまりが	63	B. I	63	.6	66	.3
⑥地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	20.0	49.2	22.4	51.1	26.4	49.7
○地域(社会とよくするために同かしてみたいと恋いますが	69	1.2	73	.5	76	.1

3. 質問調査結果(生徒指導に関する内容)

分析のポイント

- ○「いじめは許されない」と強く意識している児童の割合が高い。また、中学校でも95% の生徒がいじめはいけないと感じている。
- ○「②人が困っているときに助ける」と回答した児童·生徒の割合は約9割。ただし、強い 肯定を示した児童·生徒の割合は滋賀県·全国と比較すると低い傾向にある。
- ○「③困りごとをいつでも相談できるか」に肯定的な意見は6割程度。4割の児童·生徒は気軽に相談できないと感じている。

W 20 .0

肯定的な回答(左赤字当てはまる・右どちらかといえば当てはまる・下合計)をした生徒の割合

質問内容	野洲	州市	滋賀	!	全	国	
	児童	83.0	14.7	81.5	15.9	79.5	17.2
①いじめは、どんな理由があってもいけない	が里	97	7. 7	97	.4	96	.7
ことだと思いますか	光	75.4	20.0	77.2	18.7	77.5	18.2
	生徒	95	5.4	95	.9	95	.7
	児童	42.5	50.2	44.6	48.5	46.0	46.7
②人が困っているときには進んで助けてい	儿里	92	2.7	93	. 1	92	.7
ますか	 生徒	27. I	60.3	32.4	56. I	38.3	51.8
	工從	87	'.4	88	.5	90	.1
	児童	18.3	42.5	32.0	38.2	30.2	36.9
③困りごとや不安がある時に、先生や学校	池里 	60	8.0	70	.2	67	.1
にいる大人にいつでも相談できますか	生徒	21.6	39.7	29.0	39.9	28.7	38.8
	工化	61	.3	68	.9	67	.5

3. 質問調査結果(生活習慣に関する内容)

分析のポイント

〇基本的な生活習慣に関しては、およそ9割以上が肯定的な回答をしていて、身に付いていると考えられる。

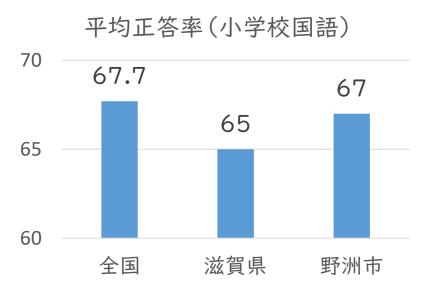
○「②同じ時刻に寝る」と回答した児童・生徒は8割程度で「③同じ時刻に起きる」の9割程度と 比較すると低くなっている。

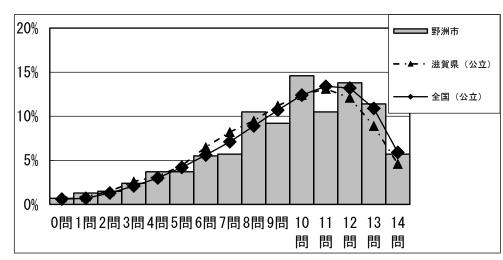
○放課後や週末に関しては、最も多かった回答が「家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、 SNSを利用したりしている」で生徒9割、児童8割が解答している。次いで多かったのが児童・生 徒共に「家族と過ごしている」で6割程度が回答している。「友達と遊んでいる」が児童・生徒共 に全国・滋賀県と比較して若干少ない傾向にある。

肯定的な回答(している・どちらかといえばしている)をした児童・生徒の割合

質 問 内 容 左が小学校。右が中	野洲 ^{学校の割合}	市	滋賀	県	全	·国
①朝食を毎日食べていますか	95.5	93.5	95.0	92.3	93.7	91.2
②毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	81.1	79.5	83.5	80.4	82.9	80.7
③毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	89.9	90.9	92.1	92.4	91.6	92.5
④放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択) 児童 左野洲市 真ん中 滋賀県 右 全国 日本 日本 日本	3. スポーツ 7. 変化チレ 2 無線上通 でしている でしたり、80 でしたり、80 している している	9. 東南と道 10. 1 ~ OIこ ルでいる のがCCい	活動に参加し や読書をして 動に でいる いる いる 校協域 によ動	「原本」 4、学習をな 5 書い事 (・	8.3ポーツ は7.ポーツに 関する取り等 とし、7. まできし とし、7. まできし とし、7. ある をし、7. ある を見利したり している	

4. 今後の取組のポイント(小学国語に関して)





【国語の課題】

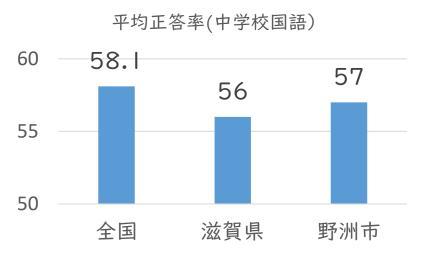
- ○取り組んだ経験がないことに対して、誤答や無答が増える。(読書記録)
- ○目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方の工夫に課題がある。
- ○国語の回答に対して「時間が足りなかった」と感じる児童が滋賀県・全国と比較して多い。

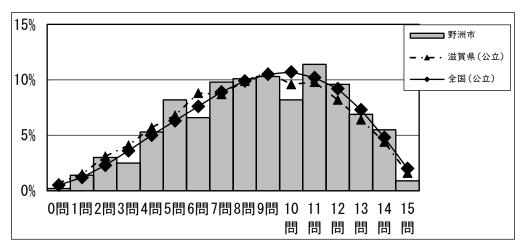


【国語の今後の取組】

- ○読書記録や表・図などから読み取らせることを学習に取り入れていく。
- ○伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする 指導の充実が大切である。
- 〇時間を区切って問題を解いたり、キーワードやポイントを意識して要約させる活動を取り入れる。

4. 今後の取組のポイント(中学国語に関して)





【国語の課題】

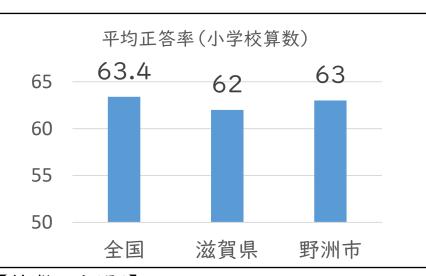
- ○取り組んだ経験がないことに対して、誤答や無答が増える。(表や図の読み取り)
- ○話し合い活動や文章などから、自分の考えを記述することはできるが、必要な情報を取り出すことや指定させた目的に沿って記述することが苦手。
- ○図や表などから読み取ったことや文章から分かることを自分の言葉でまとめることに課題がある。

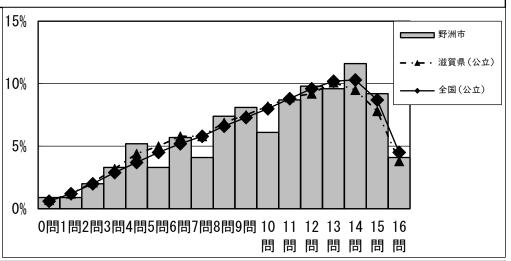


【国語の今後の取組】

- ○表・図などから読み取らせることを学習に取り入れていく。
- ○話合いの中で、話題を意識しながら経過を捉えて話したり聞いたりするように意識させる。
- ○自分が記述した内容を確認し、目的に照らし合わせて文章を改善することができるように指導する。
- ○思考ツール(表や図)を活用した授業も取り入れていく必要がある。

4. 今後の取組のポイント(小学算数に関して)





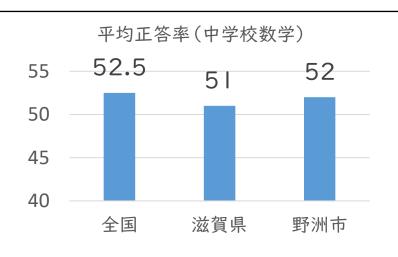
【算数の課題】

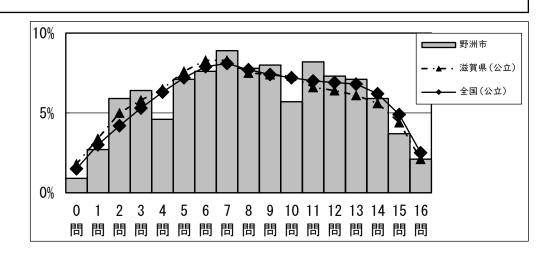
- ○基礎的·基本的な知識·技能は身に付いているが、深い理解を伴う知識の習得やその活用には課題がある。(速さの求め方や体積の公式は知っていても、それを応用する問題は苦手)
- ○立式の方法や答えの根拠を算数的な言葉を使ってまとめることに課題がある。
- ○立体を頭の中で想像することができない児童が多い。

【算数の今後の取組】

- ○体積や速さなどの意味や表し方を理解するとともに、場面や目的に応じて比べ方を考察し日常生活に生かせるように指導することが大切である。
- ○判断の根拠を算数的な表現を用いて説明できるように意識させる。(式や図のみで説明するのではなく、 算数的な表現を用いて自分の言葉でまとめさせる。)
- ○立体の理解など想像がしにくいと考えられる学習に関しては、積極的に具体物を使った活動を取り入れる。

4. 今後の取組のポイント(中学数学に関して)





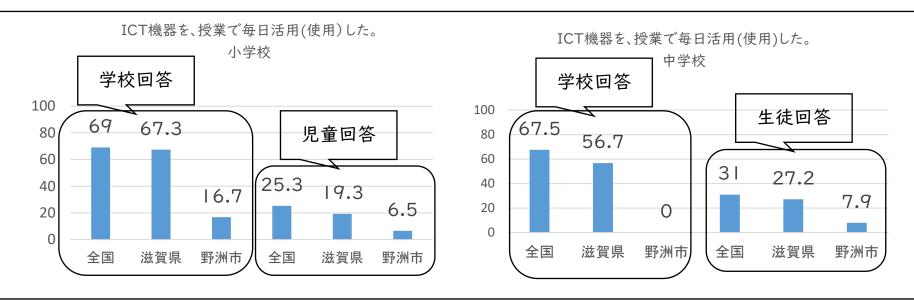
【数学の課題】

- ○データの傾向を比較して読み取り、判断の根拠を用いて説明することに課題がある
- ○文章理解や図や表の読み取りが容易な問題は正答率が高い傾向にあるが、説明の文章の量が多かったり、数値が中途半端なグラフなどの読み取りができない。(正答率が極めて低い)
- ○数学は積み上げの要素があるため、低位な学力の割合が増えている。

【数学の今後の取組】

- ○意図的に複数の集団のデータの分布の傾向を比較するなどの活動を取り入れる。
- ○判断の根拠を数学的な表現を用いて説明できるように意識させる。(式や図のみで説明するのではなく、 数学的な表現を用いて自分の言葉でまとめさせる。)
- ○問題文から何が必要な情報なのかを読み取る活動を取り入れる。図や表から読み取れることを自分の 言葉でまとめさせる。
- ○個別最適な学びを充実させる。

4. 今後の取組のポイント(児童・生徒の意識)



【児童・生徒の意識調査における課題】

OICTの活用に関して、学校の「毎日活用している」の割合が全国、滋賀県と比較して極端に低い。また、児童・生徒の意識も低くなっている。

○全般の質問に対して強い肯定が少ない。つまり、「取り組んでいる」「好きだ」「大切だ」と強く言い切れる子どもが少ない(昨年度も同じ傾向)

〇主体的・対話的で深い学びができていると感じている子どもの割合が低い。(別紙参照)



【児童・生徒に向けた今後の取組】

OICT機器を使う活動を毎日取り入れる。(ICT活用の日常化)

○学校ごとのアンケート結果を活用して、取り組んでいきたい項目を定め、それに対する活動を考え、取り入れていく。(焦点化)※いじめへの意識はこれで改善されていると考えられる。

〇協働的な学習や主体的な活動(総合などで)を意図的に取り入れ、ふり返り等で自分自身の学びと変化を実感させていく。(メタ認知)